

# いよいまグループ

20

## 心のこもった フルーツの音を

### ミュージックフルーツアンサンブル



△おじいちゃん、おばあちゃんを前に  
駿河荘で

ミュージックフルーツアンサンブルは、昭和59年、26人の会員で誕生しました。以来、毎年2・3回の演奏会、会員相互の親睦を兼ねた合宿などを行っています。現在は、高校生から社会人まで59人のフルーツオーケストラに成長し、クラシックを中心に、童謡からポップスまで、幅広い曲目にチャレンジしています。また、駿河荘の慰問では、演歌も演奏しました。

練習は月2回、土曜か日曜日に保健婦人センターで行いますが、つい先日、メンバーの中から、2組目のカップルが誕生するなど、大変楽しい練習になっています。プロ、アマを問わず、フルーツ愛好者なら、いつでも入会できます。

今年は、新富士駅やすらぎ広場でのコンサート、合宿、保健婦人センターでのチャリティーコンサートなどを行います。心を込めたフルーツの音を聞きに、ぜひコンサートにお出かけください。

問い合わせ 茅原初子 ☎63-5787

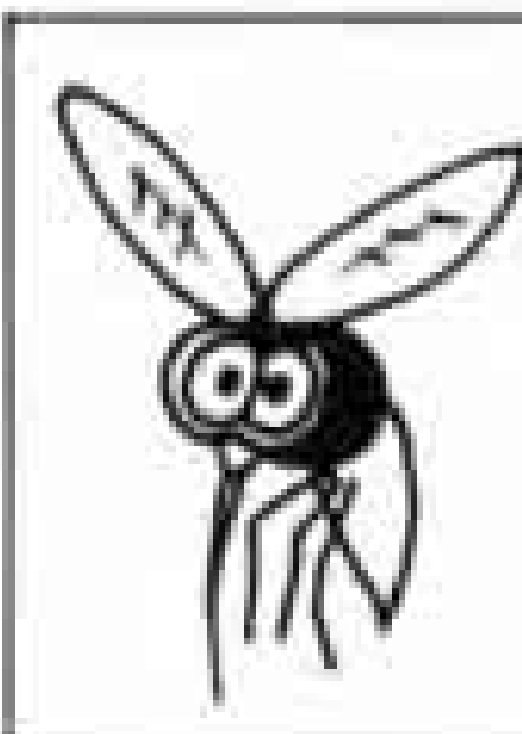
いやー、この夏は大変暑い夏でした。「二十四時間戦えますか」とCMソングを口ずさみながら、原稿を書いています。大ボカを。八月五日号のナンバーが529となっていました。531の誤りでした。おわびして訂正します。精神的には、ヒンヤリしました。

こちら編集室

# 個性派の 道具たち

4

## 蚊帳



蚊帳は、夏の風物。先に布団を引いてから、蚊帳をつります。蚊が入らないようにうちわであおぎながら、素早く中に入ります。穴原の加藤清正さんと安子さんに、蚊帳のつり方を見せいただきました。

どこの家にも昔、蚊を防ぐための蚊帳が二、三枚はありました。薄暗い蚊帳の中は、風も入らず暑苦しいのですけれど、子供たちにとっては不思議な雰囲気のある場所。だから、何となく楽しくて、兄弟でふざけ合ったり、蛍を放したり、雷が鳴ると、急いで蚊帳をつって逃げ込んだりしたものです。

行商人から買ったもので、色はグリーン。紙を細く切って、ひものようにして作られています。大切に保存されてあって、四十五年以上はたっているのに、少しも傷んでいません。

「昔は牛や豚、鶏も飼っていたから、蚊が多くて……。蚊帳はもう必需品だね。蚊が逃げるように、杉の葉っぱやよもぎでいぶしたりもしたよ」

「今は家畜はいないし、農薬も使うし、環境衛生がよくなったと言うのか、蚊もハエも随分いなくなったね」と、話してくれました。



蚊帳つりは女の仕事でしたと安子さん

# ぼくの作品 わたしの作品



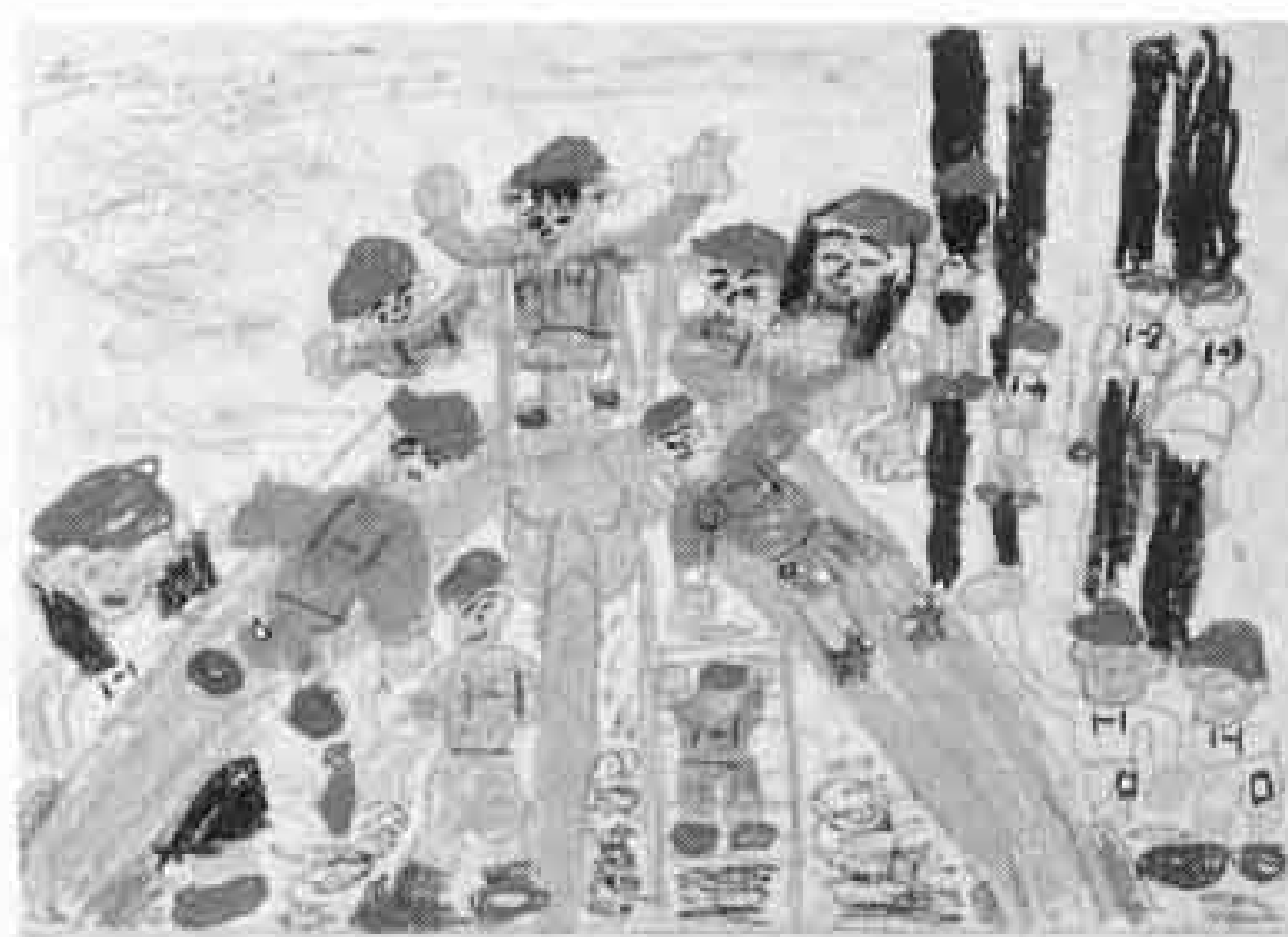
広見小学校の一年生も学校になれて、大勢の友達と遊べるようになりました。運動場でもプールでも、元気な声が響いています。



ふうるのしゃわあで、ともだちとじゃんけんしたよ。おおきなこえで、じぶんのなまえをいったとき、とてもひびいたよ。しゃわあはつめたかったけど、たのしかったよ。



はのさち



うんどうじょうには、ゆうぐがいっぱいあるよ。すべりだいですべりおにをやったら、ぼくばかりおになっちゃった。でもときどきは、けいしくんもおになっただよ。



かとうよしひさ